

# 近代化遺産を つなぐ役割を担う



NPO法人 まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会

代表理事

ひがしかわ りゅう た ろう

**東川 隆太郎さん**

Ryutarō Higashikawa



「仕事と遊びの境界は曖昧あいまいです。好きなことはかきやっていますので、仕事をしているという感覚はあまりありません。休みの日も結局仕事と同じようなことをしていますよ」と語るのは「NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会」の代表理事を務める東川隆太郎さん。歴史をキーワードにした地域資源の発掘、発見やその情報発信を主な活動内容とする「かごしま探検の会」の中心として、まち歩きによる地域資源の紹介やイベントの企画、地域を盛り上げるための仕組みづくりなどの事業に携わっている。

平成19年度には鹿児島県の委託を受けて、県内にある産業遺産の存在や価値を県民に紹介する講演会や実際に遺産を見学するツアーを実施するなど「九州・山口の近代化産業遺産群」の世界遺産登録に向けた気運づくりの一翼も担う。

また、独自の視点で捉えた何げない風景や忘れ去られそうな地域資源などに光をあてた「世間遺産」を南日本新聞の夕刊に連載し好評を博している。

「モットーについて尋ねると『頑張らない』かな。頑張りすぎると無理が出るし、自分が頑張ったという思いが強いと、どうしても相手に結果を求めてしまうんですよ」と語る東川さんに、活動への思いや産業遺産について語ってもらった。

# 自分が住む地域の魅力に 気づくことが大事

## 「かごしま探検の会」設立のきっかけは

子どもの頃から温泉と歴史が好きで、小学5年の時にできた黎明館に週末になると入り浸っていたし、鹿児島大学の原口泉教授が出演されていた「かごしま歴史散歩」というテレビ番組が大好きで、将来は地域の人にわかりやすく歴史を伝えるような仕事をしたいと子供心に思っていました。

大学を卒業してからも趣味で史跡めぐりなどをずっと続けていたんですが、趣味だけで終わらせるのではなくて、自分たちが調べたことや大学で学んだ知識を



「かごしま近代化遺産を語る会」の設立。世界遺産登録に向けた気運づくりに一役かっている。

幅広くいろんな人に伝えていけるような活動はできないかとの思いから、NPO法に基づいた「かごしま探検の会」を立ち上げました。

## まち歩きが活動の中心に

今いろんなところでまち歩きが言われているけど、自分たちがNPOを立ち上げてからずっとやってきた活動がまち歩きなんです。車で走るのは違って、歩くというスピードによつて気づくこともたくさんあるし、同じ道でも角度を変えたり、視点を変えたり、テーマを変えたりすることで浮かび上がる物語が違うので、地域の魅力に気づきやすいんです。

それにまち歩きは歴史の本物に触れることができるから訴える力が全然違うんですよ。やはり本物を自分の目で直に見ることでそのものが身近なものとして感じられたり、すごく印象に残ったりする。そんな感動を大切にしたいので、今後ともまち歩きを続けたいですね。

## 東川さんから見た鹿児島島の魅力は

多くの島々があり、海に囲まれていて、それに本土の端に位置していることもあって、独自の文化や地域性があることですね。薩摩半島と大隅半島は違うし、種子島と屋久島も違う。奄美諸島も島ごと



磯地区に点在している近代化遺産を説明する東川さん

に文化が違うというように一つの県なのに地域ごとに特色がある。そういう違いがはつきりしているところが鹿児島島の面白さだし、豊かさだと思えます。

ただ僕が県内の色々な所を巡っていて思うのは、地域の人がある特色や魅力に気づいていないことが多いということです。せっかくの素晴らしい風景も、その魅力に気づかないと変な演出をしたりして台無しにすることだってあります。地域おこしやまちづくりの第一歩は、自分が住んでいる地域がどんな特徴があるかを知り、他とは違うどんな魅力があることに気づくことではないのかなと。そのためにも比較する視点は必要だと思います。

## 近代化遺産群の啓発にも一役かっ ておられますね

「九州・山口の近代化産業遺産群」がようやく暫定リスト入りを果たしました。世界遺産登録への道のりはまだ長いですが、スタート地点に立てたという意味では大前進だと思います。今後世界遺産としての登録を目指すためには、住民の理解と後押しがどれだけあるかが大きなポイントになってくるのではないのでしょうか。特に今回は九州・山口で一つの近代化遺産群を形成していますから、お互いの遺産を結びつける物語がすごく重要になってくるし、それを住民に浸透させることが大切だと思います。例えば鹿児島の人でも福岡の炭坑遺産の価値を知らないといけないし、福岡の人にも集積館のことを知って欲しいんです。そのことが世界遺産につながると思うので、これからも講演会やイベントなどの活動を通じて、住民の理解を深めたり、それぞれの近代化遺産をつなげるような役割を担っていきたいと思っています。

それともう一つ大事なことは、曾木発電所遺構のように暫定リストには載っていない貴重な近代化遺産が鹿児島にはまだたくさんあるということです。だから今回リスト入りした4つの遺産を核にして、その他の遺産に物語を抜けていくことが大切だし、逆に言えば鹿児島のみまざまな遺産群が集結してこそ本当の世界遺産になると思います。